

長崎県観光動向調査 (平成30年1～3月分)

● 主要指標

平成30年1～3月

	対象 施設	延べ宿泊客数 利用者数	H30-H29 同期比	
			増減率	増減数
主要宿泊施設	158	1,143千人	+7.5%	+80千人
主要観光施設	26	1,882千人	▲5.0%	▲100千人

	主要宿泊施設 客室稼働率	前年同期比 (ポイント)
1～3月累計	66.1%	▲1.0
1月	55.1%	▲1.7
2月	68.5%	+1.5
3月	74.6%	▲2.7

● 概況

- 主要宿泊施設の宿泊客数は、新規施設や昨年はリニューアル工事などで休館していた大型施設などが堅調で、1～3月期全体では対前年同期比+7.5%と4期連続の増となった。特に、昨年は1月末であった旧正月が今年は2月となったことにより、大型イベントの開催日程や東アジアの旧正月休暇の影響もあって、2月は宿泊客が大幅に増加した。
- 主要観光施設の利用者数は、1月の大雪をはじめ、例年に比べ天候に恵まれず、また、雲仙災害岳記念館のリニューアルにともなう休館(2～3月)などにより、1～3月期全体では対前年比▲5.0%となった。なお、個別の施設では、昨年11月に表門橋が開通した出島の対前年増と、昨年は映画「沈黙－サイレンス－」の公開効果があった遠藤周作文学館の反動減が際立った。

ブロック別の主な増減要因

【長崎・西彼ブロック】

1月の大雪の影響などにより、主要観光施設の利用者数は軒並み対前年減となった。宿泊客数は、昨年はリニューアル工事などで休館していた大型施設などが堅調で、1～3月期全体では対前年同期比+4.4%となった。

【佐世保・西海・東彼・北松ブロック】

1月の大雪の影響などにより、主要観光施設の利用者数は対前年減となった。ただし、宿泊客数は、佐世保市において堅調に推移し、1～3月期全体では対前年同期比+6.8%となった。

【平戸・松浦ブロック】

松浦地区はビジネス需要の変動により3月が対前年大幅減となったものの、平戸地区の昨年リニューアル工事で休館していた大型施設が堅調で、ブロック全体の1～3月期の宿泊客数は対前年同期比+60.6%と3期連続で大幅増となった。

【諫早・大村ブロック】

新規施設の影響や、V・ファーレン長崎のJ1昇格効果により、1～3月期全体では対前年同期比+5.9%となった。

【島原半島ブロック】

地域全体としてツアー客や団体客が減少しており、1～3月期全体の宿泊客数は対前年同期比▲3.5%と3期連続の減となった。

【五島ブロック】

新上五島町における昨年のビジネス需要の反動減などにより、1～3月期全体の宿泊客数は対前年同期比▲4.1%となった。

【壱岐ブロック】

有人国境離島法に基づく国の交付金を活用した滞在型旅行商品などの販売が順調で、1～3月期全体の宿泊客数は対前年同期比+22.4%と2期連続で大幅増となった。

【対馬ブロック】

韓国人観光客の入込が増加し続けており、また、新規施設が引き続き堅調であったことから、1～3月期全体の宿泊客数は対前年同期比+63.6%と4期連続で著しく増加した。

【参考】外国人観光客（宿泊客）の動向

1～3月期全体の外国人宿泊客数は対前年同期比+15.8%となった。

特にアジア地域が堅調に推移し、旧正月休暇が昨年は1月末であったが今年は2月に移動したことによる影響などが見受けられた。

主要な国・地域別に状況を見ると、対馬への入込が好調な韓国は、4期連続で対前年大幅増となった。また、中国及び台湾は、特に2月が著しく増加したことから、1～3月全体でも対前年大幅増となった。

(参考資料)



